

1. 平成30年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 「古代東ユーラシア世界の人流と倭国・日本」の概要

研究目的

本プロジェクトは、「倭国」から「日本」へと変化する日本における古代国家形成期を中心に、前近代日本の外来文化の受容に際して、その移植・仲介者となった渡来者・渡来者集団に焦点を絞り、その〈流動と土着〉化の歴史的経緯やその意義を明らかにすることを課題とします。

従来、この分野は遣隋使・遣唐使に随行した留学生・留学僧の研究や朝鮮半島からの渡来人の研究に収斂されてきました。本プロジェクトでは、1. 中国や朝鮮半島からの渡来者だけでなく、2. 少人数ゆえに従来は等閑視されてきた「靺鞨人」・「崑崙人」・「胡国人」・「林邑人」などにも対象を広げ、こうした人々の人流の動向を東ユーラシアの多面的な歴史展開にも留意して多角的視野から検討をこころみます。3. 当然、彼らが日本列島各地に形成したコミュニティも対象とするとともに、4. こうした移植・媒介された文化がその後の日本文化・社会においてどのように咀嚼・変容され、日本文化の一部となっていくかを検証します。

研究計画・研究方法

主たる研究対象は、①隋・唐からの来日外国人、②朝鮮半島からの渡来人と彼らが日本列島内に形成したコミュニティの研究、③ベトナムなど周縁国からの来日外国人とその伝来文化、④中世・近世における来日外国人の伝来文化など4つの柱を中心とし、文化・文物・情報の直接の「移植者」・「媒介者」の〈流動と土着〉化の歴史的な検証とその正当な位置づけ、その歴史的意義を明らかにします。そのことによって、今日の多極化する国際社会のなかで、さまざまな文化衝突を克服し、深い自己理解とともに正確な他者理解を実現することに寄与するものであり、この点において、本プロジェクトは、すぐれて現代的意義を有する研究と言えます。

なお、「井真成墓誌」やオープン・リサーチ・センター整備事業である「古代東アジア世界史と留学生」の研究を通じて培われた中国・西北大学との共同研究を継続し、同大学国際文化交流学院内に新たに組織された「遣唐使・中日交流研究班」とも共同で研究していく予定であり、研究期間終了後においても、学術の国際交流という点でも効果が期待できます。

このような学術交流やメンバーの研究分野の有機的結合等により、渡来者・渡来集団の流動と土着化についての研究基盤が形成され、国内外の東ユーラシア世界の研究者との交流は、若手研究者の養成にもつながります。